

1 委員の委嘱及び自己紹介(委員名簿参照)

委員名簿を基に自己紹介を行った。

2 令和6年度会長・副会長の選出及び就任挨拶

○会長 南雲 弘 委員 ○副会長 中澤 秀子 委員

会長と副会長に2名が選出された。

3 参考資料の確認

事務局から参考資料の説明。資料は以下のとおり。

- (1) コミュニティ・スクールの概要および成果確認について
- (2) 湯沢町学校運営協議会会則について

4 協議事項

(1) 令和6年度学校運営方針について

湯沢小学校の中沢校長より湯沢学園令和6年度のグランドデザインを資料に基づいて説明。

湯沢小・中学校は「コスモスプラン」、湯沢認定こども園は「教育と養護」を基に教育活動を進めている。コスモスプランについては、8つのプランの中でも特に学力向上、心の教育の充実、体力向上に力を入れて取り組んでいる。コスモスプランの中にキャリア教育との連携による地域とのかかわりを深めるために、副読本「大好き!!湯沢」を活用した教育を進めていく。また、読書の充実を図るために、今年度は学校運営協議会委員でもある松田菜穂子さんから学校司書としてもサポートしていただいている。読書環境の整備と本を読む習慣の確立を図っていきたい。

保小中の連続的な教育活動について。保育期から前期、中期、後期と4つに分けてそれぞれの年齢に応じた教育の充実を図っていく。

年間スケジュールで昨年度との変更点について。湯沢っ子絆活動を通年活動として取り入れた。昨年度は6月に行っていたが、今年度からは各地域の活動に合わせて児童生徒が参加をしていくようなかたちで計画をしているため。あとは中期(5・6・7年)活動の充実、6年生と7・8・9年生との乗り入れ授業にも力を入れていきたいと思っている。また、今年度は非常時を想定した引き渡し訓練を計画している。11月のあおぞら祭りについては、今までは、園と小学校の繋がりを目的とした行事だったが、今年度は昨年度同様に7年生にも参加してもらい中学生にも活躍をしてもらいたい。

学園の経営方針について。保小中が一体となる連続的な教育活動を推進していく。各期における育てたい力と指導法を明確にし、積み重ねを大事しながらそれぞれの目標の実現に向けて取り組んでいく。そして、「湯沢学園学習リーフレット」を授業経営及び学習の道しるべとして活用していく。学びの基礎力である、聞く・書く・話すをそれぞれの学習リーフレットを活用し、指導や評価の可視化を大事にしながら教育活動をしていく。また、観光の町である湯沢町の未来を担う子どもたちにおもてなしの心も、心の教育の充実を通して育んでいきたい。

読書の充実。今年度は松田菜穂子さんから学校司書としてサポートしていただいている。本に触れる機会を増やし、読解力をつけることを大事にしていきたい。

湯沢学園の特色ある教育活動の推進を目指して、次の3点を大事にしていきたい。

- ・子育て支援センターとの連携。保小中一貫した特別支援教育・教育相談体制の充実を図る。
- ・先進的な環境を活かした教育活動の展開。ICT教育に取り組み、学びの活性化と授業の充実の実現を目指す。
- ・地域連携活動の充実と湯沢を誇りに思う活動の推進。キャリア教育リーフレットを地域の

事業所や保護者に配布し、理解を得て地域一体となってオール湯沢の教育の基盤を構築する。現在コロナ以前の活動が戻りつつある。今後も地域や保護者を巻き込んだ活動の体制づくりを進めていきたい。

湯沢学園の指導の基本姿勢について。子どもと共に活動し、変化を見逃さない、褒めて育てる指導を徹底していく。自己肯定感を高める指導姿勢の堅持。湯沢学園の教育目標である「人を想い 我を磨く」を職員全員が大切にし、この言葉の意味を子どもたちに提示しながら地域全体で“オール湯沢”として教育活動を推進していく。

【質疑】

○コスモスプランで命の教育の充実の中に防災教育の充実とあり、コミュニティスクールでも取り組む課題のひとつだと思うがどのような計画をしているか。

→防災によっても地域の特色によって何を重点とするか変わってくる。単に学園内での避難訓練だけでなく、引き渡し訓練をすることによって地域一体となった防災教育をしていきたいと考えている。また、湯沢町は砂防ダムがたくさんあったり降雪が多い地域なので、防災と繋げて地域の方からお話をさせていただくというのも一つの防災教育になり、学園と地域の繋がりも生まれるのではないかと考えている。

○「大好き!!湯沢」の編成作業の進め方について。

→現在、教育委員会が主体となって進めていて地域の方から情報提供をしてもらっている。また編成当初、役員だった方からも協力していただき作業を進めている。今後1年半かけて編集作業を行っていく予定。

○引き渡し訓練について。

→昨年度は学園内での動きしか出来ず、保護者に実際に引き渡すというところまで出来なかったが今年度は計画をしている。保護者、地域を交えて行う点や、学園敷地内が一方通行で迎えに来る方たちの動線が複雑になってくるという点についても入念に検討し計画をしていきたい。

→今年度は7月に実施予定となっているが、湯沢町は冬のシーズンに観光客が多数訪れ、観光業に関わっている家庭も多いはず。そういった時期に訓練を行うことで、保護者は迎えに来れるのか、来れない場合はどういう対応をしなければいけないのかなどの対策を考えることができるため、湯沢町の実態に合った防災教育、訓練を考えていくことも大事だと思う。

○湯沢っ子絆活動の今年度の予定について。

→各町内会長にアンケートをとった結果、学校で日程を決めて行うのではなく各地区ごとに取り組んでもらうこととなった。5月に町内会長会があるので、そこで再度説明をする予定。地区の実状に合わせて活動をしてもらうので子どもがいなくて活動出来ないという地区も出てくる。その場合は活動なしで報告をしてもらう。

(2) 令和6年度の年間活動計画について

学校運営協議会は年5回を予定している。5回の中の1回を拡大運営協議会ということで例年参加者を広げて行っている。今年度は8月22日(木)の第3回を拡大運営協議会にする予定。参加者については、職員や保護者、地域の方を交えたかたちで計画をしていく。また、子どもたちが参加できると良い。というような意見もあるので今後協議していく。主な活動内容として、挨拶の活性化、協議会だよりの発行、社会福祉協議会及びボランティア協議会とのコラボ活動を予定している。

(3) 令和6年度の活動内容について

1 社会福祉協議会及びボランティア協議会とのコラボ活動について(地域協働推進部会より)

○昨年度同様、夏休みボランティア体験を通して学校は体験活動のレポートを夏休みの課題のひとつとする。社会福祉協議会は子どもたちの受け入れとフェスでレポートを掲示する。また、フェスで学園ブースを設置し、子どもたちの学習報告ややりたいことが出来るブースを提供する。

○今年度新しい活動として小学校のクラブ活動をボランティア協議会との協働活動として行う。ボランティア団体が主体的に行う教育活動として位置づけ1年を通して子供たちと共に活動し

ていく。中学校では文化部内で健康福祉フェスティバル等を通して地域と共に活動を行う機会をつくる。活動内容としては、例えばボランティア団体からのポスター作成の依頼を引き受け部活内で作成するなどの活動が出来るのではないかと考えている。これらの提案は学校の負担を減らすことが大前提で、推進部会や地域おこし協力隊などと連携して協働活動をしていくことを考えている。文科省の資料から特別活動は、地域との連携の充実を図ることが目的とも記載してあるため、地域学校協働本部が地域と連携したかたちでクラブ活動の運営をしたいと考えているが、現在、地域学校協働本部が設置されていないため推進部会の方で動きを進めている。

2 講演会及び拡大運営協議会の開催について

文科省では「社会に開かれた教育課程の実現」のために、学校保護者、地域が情報を共有しお互いが連携・協働していくことが求められている。「オール湯沢で子育ての実現」を掲げており、そのために令和4年2月に当時の県立生涯学習センターの五十嵐様より学校運営協議会の中でご講話していただいた。目標の実現のために今年度は講演会を計画している。6月3日(月)に学校運営協議会とPTA連絡協議会の合同開催として一般財団法人みらいずworksの方をお招きしご講話していただく計画をしている。

3 昼休みの見守りについて

広い校内でそれぞれ活動している子どもたちに職員だけでは全てに目が届いていないのが現状。そこで「いつでも参観日」と称して、保護者ボランティアを募る。今年度はPTA組織の縮小もあり、学校に関わる機会も減っている中、都合がつかず学習参観等に来れない保護者もいるのではないかと考え、学校に来れる機会を増やすという狙いもある。

以上の提案は子どもたちの学力向上が一番の目的で、学力向上以外の部分で地域や保護者ができることはいろいろあると思っている。様々な角度から学校と保護者と地域が関わりをもち、オール湯沢で子どもたちを見守っていきたい。そのためには学校、保護者、地域、それぞれの役割を明確にする必要がある。それを明確にし、学校の負担を減らしていくのが学校運営協議会の意義だと考えるので共通理解を図り、同じ目標に向けて活動に取り組んでいきたい。

【質疑】

- 小学校のクラブ活動、中学校の文化部の活動を具体的に教えてほしい。
- クラブ活動は4年生から6年生が行なっている。手芸クラブや料理クラブなどがあり、地域の人々と連携して行う工夫をすることと文科省からも提言されている。子どもたちと活動したいボランティア団体と連携をとって学校の負担を減らしたいと考えている。中学校の文化部については、“文化部”という部活動があり、絵を描いたりしている活動の中でポスターの作成依頼をすれば地域との繋がりが出てくるのではないかと考えている。
- 提案してきた取り組みを行うときに学校と地域の要望をつなげる役割を担っているのが地域協働推進部会。地域の伝統文化や人材を考えると先生方はどうやって決めるか困ると思う。その時に推進部会を通じて話をしてもらえると学校とボランティア団体を繋げることができる。現在湯沢町でボランティア団体に登録している数は12団体。団体の中には高齢化が進み活動が思うようにできないと悩んでいる団体もある。また、活動を若い人たちに知ってもらいたいという思いもある。協働活動を通して地域の課題と学校の課題を解決していきたい。
- 今中学校の部活動が地域の社会教育活動に移行していているが、部活動に捉われず健康福祉フェスティバル等で実績をつくっていき、子どもたちにイメージをもたせること、地域との関わり方や参加する機会を提供することが大事なことだと思う。

- 拡大運営協議会について。昨年度参加してみて、グループワークで話し合いをした時に先生方の事務量の多さや普段の大変な話を聞いて多忙だと感じた。しかし、その話を聞いて地域住民としては何も出来ないとも感じ、拡大運営協議会を開催するならば内容の検討が必要だと感じた。
- 昼休みの見守りについて。複数の目で見ていただくことに対しては非常にありがたい取り組みだと思う。ただ施錠等のセキュリティの部分に心配がある。また、授業参観とは違い見守りをする中で子ども間でのトラブルを対応することになった時に不要な情報が外部に漏洩してしまう危険性も考えられるため、個人情報に関しては協力していただく保護者に対して誓約書を書いてもらうなどの対策を取る必要があり、今後の検討課題である。
- 6月3日(月)の講演会の予算についての確認。教育委員会と湯沢町PTA連絡協議会で負担をする。

5 その他

(1) 次回の開催予定日時について

期日 6月21日(金)
時間 15:00~16:30
会場 湯沢学園 会議室

(2) その他

○推進部会への参加について。

現在は中澤秀子委員と伊藤亘委員の2名。今回の協議会で松田菜穂子委員が承認され新たに加わった。

○委員への学園だより等の配付について。

学校運営協議会時の配付やデータでの配信を検討していく。

6 閉会の挨拶(中澤 秀子 副会長)

先日ある事業所に知り合いがいて数年経って後輩が出来て指導している姿を見た。やりがいを持ち楽しそうに仕事をしている姿を見て嬉しくなった。湯沢町のために役に立ちたいという思い、人や地域の役に立っているというやりがいを湯沢学園の子どもたちにも感じてもらいたい。子どもたちは大人の姿を見ている。大人たちが楽しく活動していないと子どもたちにもそれが伝わってしまう。クラブ活動や職場体験を受け入れる事業所の方たちも前向きに子どもたちと活動できる、協働活動できる環境をつくっていく必要があると思っている。そういった活動、取組がしていけるようにこれから皆さんと協力してやっていきたいと思っている。本日はお忙しい中ありがとうございました。